

戸田武雄先生退任記念号の発刊に寄せて

経済学部長 飯 岡 透

本論集は昭和58年3月に停年を迎えられた戸田武雄先生の退任を記念して発行されるものであるが、長年にわたる先生の本学部に対する御尽力について衷心より謝意を表するとともに、そのための辞を謹書する機会を与えられたことは私にとりまことに光栄と存ずる反面、心からの寂しさを禁じえない次第である。

巻末に掲載されている御略歴からも明らかなように、先生は昭和5年3月に東京帝国大学経済学部を御卒業の後、今次世界大戦中及び大戦後の僅か数か月の会社勤務を除いて、ほとんどを学究の徒として過された。

本学には昭和41年4月に経済学部及び大学院経済学研究科教授として高崎経済大学より招聘され、爾来17年間学部及び大学院経済学研究科において主として経済原論の講義及び演習を担当されて多くの優れた卒業生を世に送り出された。

顧みると先生の在職されたこの17年間は、私共大学に勤務するものにとっては、きわめて厳しい試練の時期であったが、同時にわが駒沢大学にとっては変革の時期でもあった。そしてこの間先生は大学及び学部の近代化と発展のため礎石とも支柱ともなって活躍された。

こうした大学ならびに学部の改革に強い信念と自信をもって立向われる先生の姿は、偶然とはいえ、同じ年に本学に勤務するようになった私にとって、きわめて大きな存在であった。そして、教師として何らかの判断と行動が求められる時、先生の存在は常に私にとって規範となった。

先生との17年間を通じて、私をもっとも敬服することは、御老体にも拘らず、先生は教授会に必ず出席され、また教授会で問題の解決が混迷するとき、

常日頃どちらかというと言寡黙の先生が問題の本質を衝き、その解決のために提言されたことである。現在、教授会運営の衝に当る私にとって、こうした教授会における先生の毅然とした態度を思い出す度に、先生の存在がいかに偉大であったかをあらためて痛感する今日此頃である。

また日夜の研究成果を着実に整理され、次々と論文や著書として発表されていく先生の学問に対する情熱と努力は、専門を異にするとはいえ、同じ学徒として私にとって驚異的な存在であった。とくに雑用にかまけて研究を怠りがちな昨今、この感をますます深くする。

激変する社会のなかで、今日、大学教育の意味があらためて問われているが、こうした時期に先生が本学部を去られるのは極めて残念なことである。私共は先生の残された偉大な業績を継承しつつ、さらに本学部の飛躍的な発展を期して結集しなければならない。

戸田先生は、現在幸いにもお元気である。今後とも健康には一層の留意をされ、本学部発展のために御指導賜るようこの場をかりてお願いする次第である。ここに先生の長年にわたる本学部に対する御尽力に対して、ささやかな「記念号」を編み、私共の感謝の印としたいと思う。

(昭和58年12月22日記)